

携帯電話とインターネット

兵庫県・灘中学校 3年 平井 宏和

今回夏休みの宿題としてこの作文が出されたとき、僕は面倒くさいと思いつつも宿題なので仕方なくテーマ一覧の表を眺めていると、「携帯電話やインターネットとの付き合い方」というテーマが目に入った。このテーマを眺めギクツとした。携帯電話の使い方を誤ったがために、痛い目にあったことがあったからである。そして僕は頭の中で中学1年の夏休みのことを思い出していた。

中学1年の夏休み、僕は両親から与えられて、人生で初めて携帯電話に触れた。両親が携帯を与えた理由は連絡を取るのに不便だからというものだが、僕は昔から、何か新しいものが手元に入ってくると、何もかもそっちのけでそれをいじり倒すという性癖がある。それを両親は知っていたが、それでもそこまでひどくならないだろうと考えて、何も特に気に留めず渡したようである（親の料金がすごく少なかったからだと思う）。しかし僕のいじり倒し方は半端でなく、友達にサイトを教えてもらってはそこに行きゲームを取りまくってはやり、飽きると別のサイトへ行くを繰り返した。当時僕は携帯電話の仕組みをよく知らず、パケット通信料のこともよく知らなかった。なので無料と書いてあれば、本当に無料だと思っていたのだ。そして、請求書が来たとき家族一同で驚愕した。その額なんと6万円。しかも父がその次の月の料金も調べると、前の月の請求書が来たところなのにもう1万円を超えていた。父は怒った。しかし、父は怒りつつもしっかりと料金の仕組みを説明した上で、こう諭した。

「こんなことにお金を使っていて、お前はそれでいいのか。」

と。

「これだけのお金があれば、どれだけのことが出来たと思う。このお金でお前の好きな本でも買ったり、ゲームを買ったりしたほうがいいんじゃないか。ひよっとすると、パソコンでも買えたかもしれない。」

と。そして父が何時間働いてそれだけのお金を稼いでいるかを教えてもらった。はっきり言ってショックだった。「これほどお金を稼ぐのは大変なのか」と思った。このとき僕はお金の重要性和その大事なお金はどこに使えばいいのかということ学んだ。お金がいかに重要であるかはそれまでも親から何度と無く、

「お金は大事なものだ。自分たちが何時間働いてお金を稼いでいると思っているんだ。」

と事あるごとに言われて、頭では知っていたものの、実感のわく体験が伴っていなかったため、理屈だけ知っている状態だったとわかった。そのせいでこのような事件が起きたのだということもわかった。そしてこのような事件が二度と起こらないようにしようと思った。そのとき父は、

「これでいい勉強にはなっただろう。授業料としては高すぎたがな。」
と言っていた。

そのように決意して2年経った今、僕はこのところインターネットの使用頻度が増えていることに気付いた。このところわからないところをインターネットでひくという癖がついてしまったようだ。これでは思考力は伸びないどころか全く考えなくなるだろう。それにこのままではインターネットに対する依存症になりかねない。そしていつかは、どっぷりはまり込んで携帯電話で味わったいやな感じの、二の舞になることだろう。少し距離をとって、使用回数を抑えるべきかもしれないと思った。が、便利なものであるがゆえにやめにくい。

そしてこの文章をここまで書いたところで、携帯電話とインターネットの共通点に気付いた。それは二つともとても便利であるという点である。人は便利なものがあるとき、それにひかれ、使おうとするのは当然の流れであるし、携帯電話やインターネットを使ってはいけないというわけではない。ただ、それを中心とする生活になってはいけないのだと思う。携帯電話やインターネットの便利さにひかれても踏みとどまって、ある程度の距離を保ちつつ一つの便利な道具として扱うことが大切なのだろう。